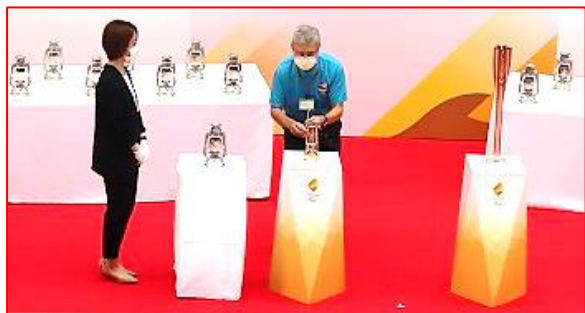




十文字西 公民館だより

■令和3年度-5号
令和3年9月1日発行
〒019-0513
十文字町植田字一ト市330
☎ 44-3100 FAX 44-5243



「パラリンピック聖火リレー採火式に参加して」

十文字西地区交流センター長（兼）公民館長
近 孝 夫

～ ★秋田県集火式 イオンモール秋田にて～

日本列島は、経験したことのない高温とコロナ禍の中での世界の祭典「東京オリンピック」が終わり、日本選手の活躍により国民は非常に勇気づけられたと思います。その後、西地区の皆さまは如何お過ごしでしょうか。

オリンピック閉会后、特に九州や中国地方を中心に日本列島全体に被害を与えている大雨や土砂崩れは、一夜で尊い命と大事な財産を奪いました。加えて、昨年度から引き続き、コロナウイルスに悩まされています。しかも、コロナウイルスが変異し、益々厄介になり、その対応に政府をはじめ、日本国民のほとんどが四苦八苦しているのが現状であります。それにも関わらず、人流は益々増加傾向にあり、大きな悩みの一つでもあります。

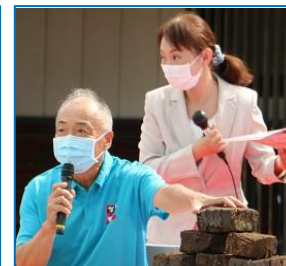
8月24日からはパラリンピックが始まり、その事前事業として東京2020パラリンピック聖火リレーに不可欠な採火式が8月16日に実施されました。

8月16日午前中は、横手市武道館前で採火式が実施され、参加者は市内の各小学校4年生から6年生まで計41名、保護者等48名、そして一般参加者を合わせると約150名ほどでした。採火の前に「パラリンピック」については私が、横手の種火である「田村根っこ」については大雄地域の鈴木長悦さんが対応し、司会担当の柴田優子さん（アニバトゥルー株式会社代表）との質疑応答の形式で行いました。その後、41名の児童が願いを込めた木札を「根っこ」に燃やして横手市の「採火」にし、最後に、高橋市長がこの「横手の火」をランタンに納火しました。そして私は、スポーツ振興課長他2名の職員と共に「横手の火」を午後3時からイオンモール秋田1Fセントラルコートで実施する「東京2020パラリンピック聖火フェスティバル」に届けました。

本番では、秋田県実行委員会を代表して佐竹知事が挨拶し、25市町村の集火が始まり、横手市は3番目でしたが、私は久々に緊張しながら横手市のランタンから秋田県のランタンに火を移すことができ「ホッ」とすると同時に、全ての市町村の熱い思いのこもった火が「一つのランタン」に集められたことで、この大会のテーマの一つである「共生」を強く感じました。

次に出立式を行う予定でしたが、コロナ感染者の増加と緊急事態宣言の発出に伴い、全国各地と東京との往来を最小限にする観点から、秋田県の火は、本日の画像と映像を送るバーチャルな方式で行うことになりました。

パラリンピックは、9月5日まで続きますが、これまでも、そしてこれからも様々な困難に立ち向かう選手の皆さんには、心からエールを送りたいと思います。





～ パラリンピック聖火リレー横手市採火式メモリーズ ～



令和3年8月16日(月) 午前9時～10時30分

横手市武道館前にて



●パラリンピックの歴史と意義について説明する近館長

●納火する高橋市長と加藤課長



●採火式では市内14校の代表児童が木札に願いを込めて「横手市の火」を作り上げました！



●採火式の聖火には、
十文字西公民館の聖火台
が使用されました。
西地区館ロビーに展示中。
見に来てください！



●横手市の火に使われたのは、大雄福島地域で採掘された泥炭「田村根っこ」です。昭和30年代頃までは風呂や炊飯用の燃料として使われていました。泥炭は、睦合根木場地区でも採掘し使用されていました。